

日本最北の島で救難所訓練

6月1日(水)礼文島香深港で第32回礼救難所連合会合同訓練が行われました。この訓練は2年に1回、礼文島、利尻島にある全ての救難所が一堂に集まり、日頃の海難救助技術の鍛錬の成果を競技会形式で競うもので、巡視船しらかみは訓練展示、競技指導、競技審判として参加しました。

訓練会場となった香深港には救難所員やその応援者など約200名をこえる人が集まり、いつも静かな香深港周辺は応援の声や競技者の覇気のある声で賑わいました。競技は「救命索発射器操作法」、「心肺蘇生法」、「ゴムボート操法」の3部門の海難救助技術を競う方法で行われ、特に「ゴムボート操法」では2艇が折り返しコースをタイムで競い合い、一段と熱の入った競技となりました。

これら競技を通して、日々積み重ねられた救助技術の鍛錬の成果と自信が、迅速かつ的確な海難救助活動に結びついているものと強く感じられる訓練となりました。



心肺蘇生法の訓練指導



ゴムボート操法



惨事ストレス講習会を開催 ～救援者も傷ついている～

6月14日(火)東日本大震災対応のため当保安部から派遣された巡視船れぶん乗組員のメンタルケアを行うため、稚内保健所長 中村秀恒(なかむら ひでちか)氏を講師に招き「惨事ストレスについて」と題して講習会を開催しました。

職務上、危険が伴う海上保安官は、日夜様々な事件事故に対応していますが、未曾有の東日本大震災の現場で作業を行ってきた職員のストレスは計り知れず、職員の精神的なサポートを早急に実施することが急務となっていました。

講習では、救援者のストレスについて教育を行なうなどして、精神論的な誤った対応を行わないよう惨事ストレスの特徴を理解し、組織としての対策を立てることが重要であるなどの説明がありました。講習を受けた各職員は一番身近な自分について各々考え、人を労わることや職場環境・家族との関係が重要であることを再認識することとなりました。



～巡視船れぶん日記～

先日まで、東日本大震災の対応で、東北沖に派遣されていきました巡視船れぶんですが、しばしの休養(整備)をとり乗員、船ともに元気になってまた業務に励みます!!
(写真はドック入渠中のれぶん)



ドック入渠中のれぶん



ドック入渠中のれぶん

☆地域イベント情報☆ 巡視船れぶん一般公開

7月10日(日)「エプロ・ノーザンロード・カー&おおなごフードフェスタ」に合わせ巡視船れぶんの一般公開を稚内港北防波堤ドーム前岸壁にて行います。当日は、れぶんの一般公開のほか制服試着コーナー、海上保安グッズ販売などが行われます。



ぼくと一緒に写真を撮ろう

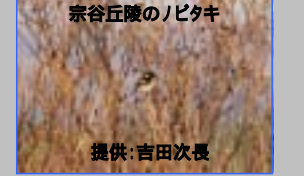


★今月のBESTショット★



雲海に浮かぶ利尻富士(航空機から)

提供:管理課



宗谷丘陵のノビタキ

提供:吉田次長

おめでとうみさるとうーみんこーとー



第二管区

ねぶた